

ユニバーサルデザインと暮らし

2単位

担当教員：星川 安之、森川 美和

身近なところに存在するユニバーサルデザイン(高齢者・障害のある人も使いやすい製品やサービス、施設「共用品」ともいう)を知り生活に生かす方法を学習する

講義目的・到達目標

ユニバーサルデザインを理解する

私たちの暮らしの中に、「ユニバーサルデザイン」という言葉が浸透し、最近各分野において、ユニバーサルデザインの視点からの設計や基準の見直しが活発になってきている。

しかし、福祉分野では、その考え方が大切で、かつ応用できる工夫や製品が数多くあるにも関わらず、見過ごされてしまっているケースがある。ユニバーサルデザインおよび関連する概念を学ぶとともに、ユニバーサルデザインが人々の暮らしに与える効果・意義について考える。

講義の構成

講義の流れ

1. 担当教員による講義

「日本発ユニバーサルデザインのはじまりから今まで」

「共用品・共用サービスの配慮点について」

「共用品・共用サービスがめざす社会」

2. ゲスト講師による講義及びフォーラム

「企業におけるユニバーサルデザインの実践」

「障害者の日常生活の不便さと解決されていること」

視覚障害・聴覚障害・肢体不自由の当事者のゲスト講師を招いて

3. グループ実習

「より多くの人々が利用しやすい旅行の視点の整理とグループ討議」

グループ発表と質疑応答、担当教員によるまとめ

講義のポイント

本講義では、身近なところに存在するユニバーサルデザイン、共用品・共用サービスに気づき、日常の生活に活かす方法を知ることが必要である。国際的にも注目されている”日本生まれの高齢者・障害のある人が使いやすい共用品”は日本が世界に誇るモノづくりの一つである。担当教員より、共用品を知ることが高齢者・障害のある人に対して日本がどのように取り組み世界に働きかけているかを学習する。またゲスト講師の障害当事者から、様々な場面で遭遇する便利さや不便さ等を聞くことで、視野が広がり多面的に物事を考え解決していく力をつけていく。



受講するにあたって

①事前学習の すすめ

共用品推進機構のウェブサイトや以下の参考図書、関連図書を一読し、自分の周りにある共用品についても少し学習をしておくことをお勧めする。

②参考図書

後藤芳一・星川安之『共用品という思想 - デザインの標準化をめざして -』岩波書店

佐川賢・星川安之『より多くの人々が使いやすいアクセシブルデザイン入門(やさしいシリーズ)』日本規格協会
共用品推進機構『共用品白書2003』ぎょうせい

③評価基準

授業中の取り組み姿勢と、学科試験に相当する筆記レポートの内容を考慮し評価する。

④より学びを 深めるために

参考図書をいずれか一冊でも読んでおくと、より深く正しく理解できるであろう。